
交番の、不思議な鍵

官木住辛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

交番の、不思議な鍵

【Nコード】

N7689L

【作者名】

官木住辛

【あらすじ】

ある交番に、変わった鍵が届いた。その鍵の正体とは……？

交番で働いている私のもとには落とし物がたくさん届く。今日も鍵の落とし物があったのだが、この鍵が変わった形をしている。そして普通の家の鍵よりずっと大きく、年季の入った色と質感をしている。

私は妄想を開始した。例えばこういう話はどうかだろう。

これは、宝箱の鍵である。町のどこかに眠る宝箱を開けるための鍵である、とか。この鍵を巡ってイイモノとワルモノが戦うのだ。映画にでもありそうな話だ。もしくは、こうだ。

これは、幸福の鍵である。どこその作家の作品にあった話だが、この鍵に合う扉はないのだ。この鍵に合う扉を作った時、その扉から幸福の女神が現れる、という話だった。もしくはその逆だ。

これは、不幸の鍵である。この鍵を持っている者には、次々と不幸なことが起こるのだ。これもどこかで読んだ話なのだが、オチを忘れてしまった。残念。あるいは、

「すみません、変わった形の鍵が届いてませんか？」

新たな声によって妄想の世界から引き戻された。見ると、入口には今風の若い男性が立っていた。彼が声の主であろう。彼に確認をとり、鍵を渡す。礼を言っ、彼は去ろうとした。

「ところで、それは何の鍵だい？」去ろうとする彼を引き留めて訊いた。

「家の鍵ですよ。家が古いからこんな変わった鍵を使ってるんです」

それを言うと、彼は去って行った。鍵の正体の答えが意外と普通

だったことに、少しだけがっかりした。世界は映画程には常識外れではないようだ。目の前の世界は、ただただ平和だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7689/>

交番の、不思議な鍵

2010年10月9日08時00分発行